

学校を変える！学びを変える！

## 弥富高校は生まれ変わります

### 人間の尊厳を学び、道を拓く

自立・・・自分のことが好きになる学校  
共生・・・ともに希望をつむぎだす学校  
探究・・・未来を切り拓く力が育つ学校

## 第 I 部 未来を拓く力

### 1 私たちの高校生観（人間観）と学校像

#### 1. 生徒はダイヤモンドです！

##### (1) ありのままの生徒を受け容れます

必要のない人間なんてどこにもいません。一人一人があらゆる可能性を秘めたかけがえのない存在です。

##### (2) 磨けば必ず輝きだします

好きなことを見つけたとき、目標がはっきりしたとき、自分の力に気づいたとき、仲間を得たとき、人は自分の足で立ち、努力を始めます。瞳は強い力を放ち、全身から生気がみなぎります。自分磨きが始まったのです。磨くのはあくまで自分自身。でも、一人ぼっちではありません。となりにはいつだって仲間や教師がいます。

##### (3) 磨くとは、学ぶこと

学びなしに人は生きられません。学びなしに成長はありません。学ぶことは基本的人権です。学びによって、人は自分の人生の主人公になっていきます。自分を磨くとは、一生涯続く自己学習の作法を身につけていくことでもあります。

##### (4) ダイヤモンドの自覚が原動力

さまざまな成就（＝やり遂げた）体験を通じて、人は自分に対する信頼を固め、自分が価値ある存在だと気づき、自分を好きになります。これがダイヤモンドの自覚です。困難に立ち向かう原動力です。

## 2. 学校はダイヤモンドが色とりどりに輝くところ

### (1) “関係の光”を浴びてダイヤモンドは輝きます

光が当たらなければどんなものも輝くことはできません。では、生徒を輝かす光とは何でしょうか。それは、人間関係です。仲間や教師、地域の人々との出会いと協働から生まれる関係です。信頼関係が生まれると、課題や目標に対する意欲と責任感は倍増します！

### (2) 輝きは色とりどり

それぞれの個性の光が、お互いをかけがえのないものとして照らし出します。さらに、父母や地域の人々の光が集まってますます一人一人の生徒が多彩に輝きます。

### (3) 輝きの中から新しい自分が見えてきます

反射しあう光の波は今まで見えなかった新しい姿をたくさん見せてくれます。また自分の内側も照らし、新しい思考や発想が生まれます。新しいつながりを発見し、新しい自分と出会います。これが学びです。

### (4) 学校は多彩な関係の光でできている

学校は、いろんな光が集まる場所、新しい光が生まれる場所、そしてそれが多彩に輝く場所。だから、大きな窓がたくさん必要です。

## 2 21世紀を拓く未来型学力

### 1. 21世紀の教育に求められるもの

#### (1) 共に生き、お互いを生かす力…「奪い合えば不足するけど、分かち合えば足りる」

戦争と競争の20世紀をへて、21世紀は平和と地球環境保全、多文化・多言語・多民族共生の時代。ちがいを受け容れながら協力して道を拓いていく時代です。

#### (2) 対話と探究の力…「雄弁は銀、沈黙は金、対話はダイヤモンド！」

この新しい時代を切り拓く子どもたちに必要なのは「対話」と「探究」です。集めた情報を駆使してねばり強く考え抜き、協働して問題を解決する力です。

#### (3) 生涯にわたって学び続ける力…「自立とは自ら学び続けていくこと」

人間の脳はどんな時も休みなく学習を続けています。このがんばり屋さんの脳と上手につきあって活性化させながら、生涯にわたって学び続けることができるようになるのが自立するということです。その秘訣は、「感動、発見、貢献」にあります。

### 2. 未来型学力は4つ葉のクローバー

#### (1) 私たちが「未来型」と表現するのは、どんなに時代が不透明でも

未来を生き抜いていくための学力（＝未来に学び続けていく学力）だから  
未来をよりよく変えていく学力（＝未来を切り拓いていく学力）だから  
今はまだつぼみでも必ず未来に花開く学力（＝未来に育つ学力）だから

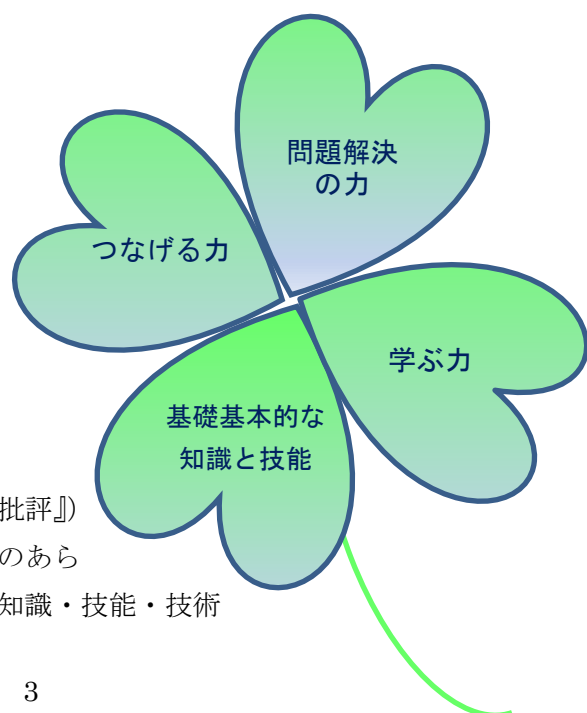
#### (2) 未来型学力を構成する4つの力

##### I. 基礎・基本的な知識と技能

① 全体の調和を生み出すモト。  
進化の種。

② 生涯にわたる学習の土台  
\* 言語の活用、抽象的シンボルの活用、科学的探究の経験、社会的認識と公正の倫理、労働と技術の経験、芸術の享受と表現、身体の運動と経験（佐藤学『カリキュラムの批評』）

③ 基礎：子どもの現在および将来のあらゆる生活に必要とされる知識・技能・技術



基本：教科に対応する学問・文化領域でより高度な知識を構成するための土台

※「基礎基本とは、次のステップ（活用、深化、発展）に向かって、また他の領域に向かって開かれていなければなりません」（2009. 7. 28 校長）

## II. 学ぶ力

### ① 自分の学習を自分でコントロールする力

- ア 自分で目標を立てて、
- イ 目標を達成するための計画をつくり、
- ウ 工夫しながら学習（や練習）を進め、
- エ うまくいかないときは計画ややり方を変更したり手直しし、
- オ 学習（や練習）の成果と問題点を自分でチェックし、
- カ 次の目標を立て、計画をつくる

（2009. 4. 13 「新しい評価の成功のために」 校長）

### ② 「学ぶ過程で獲得した諸能力の総体」

\*興味、好奇心、思考力、知的探究能力…

### ③ 5つの情報操作活動（に習熟すること）

- S 探索 (Searching)
- M モニタリング (Monitoring)
- A 組立て (Assembling)
- R リハーサル (Rehearsing)
- T 翻訳 (Translating)

## ※参考

\* 「学習とは自ら『問い』を立て、その『答え』を得るためにするものであり、そのために教師や様々な資料の助けを必要とするのである。そのような自然な学びのプロセスからはずれた学習は、子どもの自発性、自律性を育てることはできない」（佐藤広和『生活表現と個性化教育』青木書店、1995）

\* 「コンピテンス、自律性、関係性に対する基本的要求が満たされている時、学習過程に内発的に動機づけられ、積極的に関与することが人間の本質である」（ジーマーマン『自己調整学習の理論』北大路書房、2006）

\* 自己観察、自己判断、自己反応（バンデューラ、1986）

\* メタ認知、協同性、学習意欲、好奇心、効力感（2009. 7. 28 校長）

\* 「学力の三層構造」…学んだ力、学ぶ力、学ぶ意欲

柴田義松『学び方の基礎・基本と総合学習』（明治図書、1998）

## III. つなげる力

- ① 学びは、つながりの中で成立する  
(人のつながり、既知と未知のつながり、異分野間のつながり)
- ② 学びとは、新しいつながりを発見すること  
(知識や技術の新しい連結や再構成)
- ③ 学びによって、脱自己中心性が進み、他の見方ができるようになることで、それまでの自分の考えを見直し、他者の視点を取れるようになる。それによって、他者とつながり、協働する力が育つ。

※参考

\*学びを育てるのは人間関係

(仲間、教師、親らのモデリングや支え、援助)

\*「読み」の力、「書く」力の大切さ

(ブルーアー『授業が変わる』北大路書房、1997)

#### IV. 問題を解決する力

- ① 「問題の状況が、第 1 に、現実のものであり、第 2 に、解決の道筋がすぐには明らかでなく、第 3 に、ひとつのリテラシー領域内には限定されない場合に、問題に対処し、解決する能力」(『未来型学力に挑む』第一次答申、P. 16)
- ② 「問題とは…現在の状況と、解決(目標)との間の不一致の状態」  
問題解決の構成要素は、  
ア 目標がある、  
イ 障害がある、  
ウ 解決するために利用できる方略がある、  
エ どの方略を使うか(の判断)に影響する他の資源(知識やほかの人)がある、  
オ 結果を評価する(される)  
(ガートン『認知発達を探る—問題解決者としての子ども』北大路書房、2008)

※参考 — 「問題」の 4 つのタイプ

ア 真理問題(真理を探究する課題)、

イ 調整問題(利害や理念を調整する課題)、

ウ 当為問題(あるべき状態にもどす又は正す課題)、

エ 計画問題(到達すべき状態への構想を立てる課題)

(藤田英典『教育改革』岩波新書、1997)

わたしが両手をひろげても、  
お空はちっともとべないが、  
とべる小鳥はわたしのように、  
地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、  
きれいな音はでないけど、  
あの鳴るすずはわたしのよう  
たくさんうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、  
みんなちがつて、みんないい。

金子みすゞ

「わたしと小鳥とすずと」

## 第 II 部 未来型学力を育てる探究学習

### 3 「もっと知りたい、学びたい」

#### — 探究学習で学びの楽しさを取りもどそう

##### 1. 課題の前で立ちすくんでいませんか？

- (1) 人生の問題は答えが一つでないものばかり。場合によっては「絶対に正しいという答えはない」ときもあります。そんなとき、日本の子どもは立ちすくんでしまいがち。唯一の正解を求める習慣が身についてしまっていて、答えが一つでないことに不安といらだちを感じてしまう傾向が強いことが国際学力調査などではっきりしてきました。ゴールが決まっている問題には効率よく対処できても、いざ大学へ行って学問しようとする、「課題にどうとりくんだらよいのかわからない」「仲間とうまくコミュニケーションがとれない」「どう発表したらいいのかわからない」などと立ち往生してしまうのです。
- (2) 勉強の目的について、「まわりの人を幸せにするため」と答える子が少ないのも日本の特徴です。勉強をやりがいのあること、楽しいこと、と感じている生徒は多くはないようです。逆に、勉強を「自分がテストされるもの」とプレッシャーを感じている子はたくさんいます。失敗や間違いをおそれずにチャレンジすることがにがてなのはそのせいではないでしょうか。

##### 2. 学びのトキメキを取りもどそう

- (1) ハッとする瞬間が大切。ワンダーランドは感動の森です。

本来、子どもにとってはまわりにあるものすべてが心ときめく興味関心の対象。何にでも喜々として疑問を發し、何でも知りたくて冒険心豊かに自然に挑んでゆきます。子どもたちにとって学ぶとは、知の探検隊の一員となること。とても胸躍る体験です。そして、それこそが人類の進歩を支えてきました。

金子みすゞ 「不思議」

私は不思議でたまらない、  
黒い雲から降る雨が、  
銀にひかっていることが。  
私は不思議でたまらない、  
青いくわの葉たべている、  
かいこが白くなることが。  
私は不思議でたまらない、  
たれもいじらぬ夕顔が、  
ひとりではらりと開くのが。  
私は不思議でたまらない、  
誰にきいても笑ってて、  
あたりまえだ、ということが。

(2) 疑問が止まらない、探究がやめられない

—「もっと…」を引き出す探究活動

「探究」学習とは、知の探検に繰り出すこと。「なぜ、そうなるんだろう?」「それってなんだろう?」。知りたい願望にかられた子どもたちは、自分の頭で知の探検地図をひねりだして、自ら学び、考え、判断し、問題解決というゴールをめざします。

不思議に思ったことの答えを自分で見つけたときには、大人に答えを簡単に教えられた時には得られない喜びと楽しさがあります。その時、子どもには、「もっと学びたい」「もっとやりたい」という思いが泉のように湧き出てくるのです。

3. 「探究」学習の目標

(1) 学びの快感と達成感を連続的に体験します

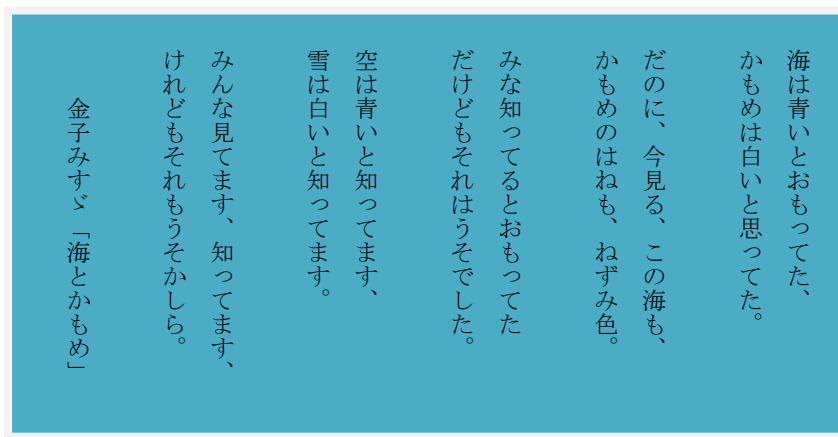
未知との出会い、課題の解決、研究発表など仲間との探究活動をつうじた「学びの快感と達成感」が自分への信頼と期待感を深め、人生（将来）を設計する意欲を高めます。

(2) 学習を自分でコントロールする力（＝基本的学習習慣）を育てます

人生のどんな時にも必要な勉強ができるように、生涯にわたる学習の基本となる自己学習の進め方と勉強の方法を習得します。あわせて大学での学問的取り組みの基礎を学び、大学での学びにスムーズに移行できる力も養います。

(3) 情報飛び交う不透明社会を生き抜く4つの力（探究力）を身につけます！

①情報を受け取り ②批判的に考え ③的確に判断し ④豊かに表現する



(4) 課題を見つけてその解決に取り組む意欲と能力を養います

自分で自由に考えて仮説を立てたり、調べて検証したり、課題を発見してその解決法を探す活動はとても楽しいので、勉強についても、自分についても、とつても





⑤ 自分と対話する

勉強って、今までの自分と対話することです。何を知っていて、何がわからなくて、何を知りたがっているのか。今思っていることが本当のことかどうか。今見えているものがすべてなのかどうか。ちがう見方や考え方で今の自分、過去の自分の考えを見直してみると新しい世界が見えてきて、自分の未来との対話が始まります。

⑥ 表現して“次”を見つける

一つの課題を解決したとき、なにかをわかったとき、驚き感動したとき、人は表現せずにはいられません。表現することによるこびは倍増します。同時に、“次の疑問”が湧いてきます。自分が外へ表現することによってハッと気づくことがあったり、反応が返ってきて自分に足りないことや思いもしなかった別の見方を教えてくれたりします。そのとき、次に踏み出す方向が見えてきます。新しい楽しみとともに。

5. 探究科目

(1) 基礎科目：『探究基礎』（1年・2単位）

～生徒一人一人の心をつかむ題材で「学び方を学ぶ」

① 探究の過程を学ぶ

ア) 課題の設定…問いに出あい、問いを深める

◇関心領域に気づく（複数） → 関心を一つに絞る（研究領域を決める）  
→ 基本情報を探す → 基本情報を記録する（情報カードをつくる）  
→ 基本情報をまとめる → メインテーマ（問い）に出会う

イ) 課題解決…資料を集め、情報を収集し、結論を導くための見通しを立てる

◇メインテーマを解決するための数個のサブテーマ（＝小課題）を設ける  
→ 仮説（＝仮の結論）を設ける → 小課題を解決する情報や仮説を証明する情報を探す、資料を集める → 分析・検証して結論を導く（論証）

ウ) 整理して発表する

◇プレゼンテーション（3年生では論文や作品発表）

② 学びの道具（スキル）を身につける

ア) 文献収集

・図書館の活用法の習得（NDC＝日本十進分類法ほか）

研究テーマに沿った内容の図書を効率よく検索する技術の習得

イ) 情報収集

・コンピューター実習：インターネット・ワープロソフトなどの活用法の習得

#### ウ) 社会調査の手法

##### ・観察

参与観察（入り込んで共に活動しながら観察すること）

景観観察（様子や状況を見て観察すること）

##### ・インタビュー実習（聞き取り調査）

ポイントをついた発問を重ねることで、聴く力に磨きをかけながらテーマに深く迫っていく力を身につけます

##### ・街かどアンケート実習

統計学に基づいた科学的なアンケート手法を学びます

#### エ) 実験のスキル

比較実験、仮説実験、観察眼の育成

#### オ) 対話のスキル

あいさつ、インタビュー、「しゃべり場」、ディベート、ブレインストーミングなどを通じて、問題解決に欠かせない対話力を育成します

#### ③ 効果的な発表の手法を身につける

(例1) プレゼンテーション…パワーポイントの活用、ポスター、紙芝居

(例2) スピーチ

#### ④ 情報を正しく受け取り、批判的に読み取る力を身につける

ア) 文献精読…前提となる言語能力を高める

イ) 聞き取り、対話、討論…他者の見解を知る。他の可能性を想定する。

#### (2) 実践科目：『探究ⅠA・B』（2年・2単位×2）

探究基礎で養った力をもとに、コースごとに「探究」を体験します。とくに地域に出での探究活動を重視します。地域とつながり、実社会の中で調査し、対話し、発信することで生徒は急激に成長するからです。

##### ① 特徴

ア) ゼミ形式など多彩な授業形態の採用

生徒個々の能力を相互に引き出し高め合う

イ) 地域が学習の主舞台

地域の人々の叡知に学ぶ。市民とコミュニケーション。

ウ) 定期的に市民にむけて発信（発表）

自己の探究成果の発表の場＝自己の成長確認実感の場

##### ② 科目

**国際探究ⅠA・B**

「エリア別学習」と「日本の発信」を大きな柱に探究します。エリア別学習ではアジア、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ、アメリカの各エリアについて学習、生徒自身が課題を探し探究活動を行います。「日本の発信」では英語力を身につけると共に世界の中での日本とは何か、世界で求められる日本力などを探究し、3年次春のアメリカ短期留学に向けた探究学習を進めていきます。

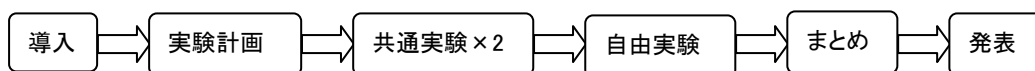
#### 地域探究 I A・B

地域のあらゆるものが探究テーマになりえます。大きな柱は、「地域探究ゼミ」と「地域貢献プロジェクト」の2つ。「地域探究ゼミ」では地域の防災・産業・文化について調査発表を行い、「地域貢献プロジェクト」ではあらゆる視点から地域を元気にする方策を考え、提案します。どちらも弥富市や、生徒自身の地元地域などをステージに、フィールドワークや外部向け発表会など、外とのつながりの中で探究学習を進めていきます。

#### 自然探究 I A・B

物理、化学、生物、地学の4分野について探究します。

全体の流れ



\* 共通実験では、科学実験に加えて工場見学や野鳥観察などの豊富なフィールドワークを実施します。

\* 自由実験では、共通実験で学んだことをもとに、生徒自身が課題を設定し、疑問を解決していきます。

#### スポーツ探究 I

「一流のアスリートはコートの中だけでは育たない。」という言葉がある通り、コート外においてもスポーツを科学的にとらえることが必要です。スポーツ探究 I では、スポーツを科学的にとらえるための手法とまとめ方、それを伝えるためのコミュニケーションスキルの習得を目指した探究学習を進めていきます。

### (3) 統合科目：『探究Ⅱ』（3年・3単位）

探究実践の経験を活かして、いよいよ自分で探究したい課題に挑戦。2年間でつちかった探究力をフル活用した成果を論文にまとめるなど、発表の機会をもちます。

#### ① 論文作成

- ・個人で探究テーマを設定し徹底追究
- ・探究活動の集大成として論文作成
- ・大学入試や大学での学びにも対応

② ポスターセッション（研究発表）

- ・探究活動の中間報告をポスターにまとめて発表し合います

③ 提言（発信）活動

- ・調査地域や関係諸機関と探究活動の成果を共有し、お互いの発展につながるよう  
に提言発表を行います。
- ・国や地方公共団体、大学、企業、市民団体などが主催するコンテストなどに積極的に応募します。

#### 4 探究各コースの目標と特徴

### 国際探究コース 今こそ“日本”を伝えたい グローバルな対話の中で

#### 【教育目標】

豊富な“国際交流活動”と、多言語・多民族・多文化が共生できるグローバル社会の「探究」学習とともに、日本を知り、世界に向けて日本を発信する力を養い、国際社会の中で活躍する人材を育成します。

#### 【学習の特徴】

1. 英語の4つの力（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）の実践力の向上をめざします。  
～短期留学生との交流（ホストファミリー）・弥富市国際交流事業への参画  
～短期留学（マリーナ高校（米）・3年生になる春休み10日間）
2. TOEIC・TOEFL・実用英語技能検定・国連英検などに挑戦します。
3. 異文化理解～自分の興味関心あるテーマについて探究学習します。  
※エリア＝アジア・アメリカ・ラテンアメリカ・ヨーロッパ・オセアニア・アフリカ
4. 地球市民としての成長をめざします。

#### 【探究テーマ例】

- ・英語で伝える俳句の世界
- ・「わび」のこころを西洋から見る
- ・英語と日本語～言葉のちがいは思考を変える？
- ・漢字と日本人
- ・空海の綜芸種智院と現代ヨーロッパの私立学校
- ・寺院で見つけた東洋のルネサンス
- ・宇宙船地球号のいま
- ・チリの日本人
- ・ナイチンゲール誓詞を英語で語る
- ・地雷をつくる人、埋める人、命を懸けてはらず人
- ・ヒロシマとフクシマ
- ・ドイツとフランス～電力をめぐる

#### 【カリキュラム表】

国際探究	1年	科目	国語総合		現代社会	世界史A	数学I	数学A	科学と人間生活	コミュニケーション英語I	英語表現I	英語会話	体育	社会と情報	家庭基礎	探究基礎	総合	H	R
		単位数	4		2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	1	1	
	2年	科目	現代文B	古典A	世界史B	日本史A又は地理A	数学II	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語II	英語表現II	保健	体育	芸術I	探究I A	探究I B	総合	H	R	
		単位数	3	2	2	3	4	2	4	2	1	2	2	2	2	1	1		
	3年	科目	現代文B	国語演習	世界史B	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語III	英語表現II	英語演習	独自科目	保健	体育	芸術II	探究II	総合	H	R		
		単位数	3	3	4	2	4	4	2	2	1	2	1	3	1	1			

**社会探究コース 地域社会でリアルに学び、リアルに活かす**

**【教育目標】**

1. 社会環境の科学的な探究学習を通じて、社会がかかえる21世紀の課題に主体的に取り組む姿勢と、たくましく「生き」「働き」「暮らす」力を養い、地域のコミュニティづくりにリーダーシップを発揮する人材を育成します。
2. 地域の伝統的な文化や産業を継承する人材を育成します。
3. 学校外での豊かな出会いと体験を通じて社会への興味関心、そして自身の将来を見据えたキャリア意識を高めます。

**【学習の特徴】**

1. 地域社会を舞台に調査研究活動にとりくみ社会科学の基本を学びます。  
～フィールドワークなどにより歴史・産業・文化・生活等のテーマ探究
2. まち興し探究～生徒による「まち興し提言」  
目標：まち興しコンテスト全国大会出場！  
→地域の方々を先生に活かした社会学習で地元を支える人材を育成
3. 地元の伝統文化や産業を体験  
地元商工会とタイアップした職業体験（＝インターンシップ）で地元の伝統文化や産業を体験し、その成果を発表します。
4. 生徒の居住地のすべてが対象です  
学校周辺の地域だけでなく、それぞれの生徒が暮らしている地域のすべてが学びのフィールドです。

**【探究テーマ例】**

- ・木曾三川の合流地に生きて

- ・水と闘い、水と生きる～水郷地帯の人々の歴史
- ・伊勢湾台風をのりこえて
- ・東南海地震に対峙する
- ・災害に強い街と学校
- ・開け！シャッター…地域の活力の創造
- ・地場産業・商業・観光と地域の「南北問題」
- ・なぎなたを受け継ぐ人々
- ・きんぎょの冒険
- ・僕のまちから見える日本の未来
- ・人権問題～外国人参政権・男女・障害者・民族

【カリキュラム表】

社会 (地域) 探究	1年	科目	国語総合		現代社会	世界史A	数学I	数学A	科学と人間生活	コミュニケーション英語I	英語表現I	英語会話	体育	社会と情報	家庭基礎	探究基礎	総合	H	R
		単位数	4		2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	1	1	
	2年	科目	現代文B	古典A	世界史B	日本史B又は地理B	数学II		生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語II	英語表現II	保健	体育	芸術I	探究I A	探究I B	総合	H	R
		単位数	3	2	2	3	4		2	4	2	1	2	2	2	2	1	1	
	3年	科目	現代文B	国語演習	世界史B		日本史B or 地理B	独自科目	数学演習	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語III	英語演習	保健	体育	芸術II	探究II	総合	H	R
		単位数	3	3	4		2	2	2	2	4	2	1	2	1	3	1	1	

自然探究コース 地域から千年後の地球へ

【教育目標】

1. 自然環境の探究学習を通じて、たくましく「生き」「働き」「暮らす」力を養い、地域の環境保全においてリーダーシップを発揮する人間を育成します。
2. 生命環境分野に関する興味・関心を育て、具体的な課題解決をめざす探究学習の中で科学的リテラシーを養い、主体的に行動する態度を養います。
3. 地域から世界へと視野を広げ、人間と科学との関わりを通じて、地球という星への貢献意識を育みます。

【学習の特徴】

地域を舞台に調査研究活動にとりくみ自然科学の基本を学びます。  
～豊富なフィールドワーク・体験学習などによるテーマ探究



【探究テーマ例】

- ・水郷のまちに生きる ～水郷環境と美しく安全なまちづくり（治水、利水、ごみ問題等）
- ・田園と共に生きる ～稲作、商品作物栽培体験
- ・なぜこんなに早いのか？ ～県内一番の早場米のわけ
- ・野鳥が教えてくれる地球のいま
- ・水郷地帯の魚たち
- ・災害を考える ～東南海地震のしくみ
- ・100年後の未来を考える ～子孫が生きやすい時代へ
- ・地球環境問題 ～生物多様性保護（エコミーとエコロジーの問題）
- ・科学と人間 ～高度に発達した科学文明社会は人間を幸福にするか

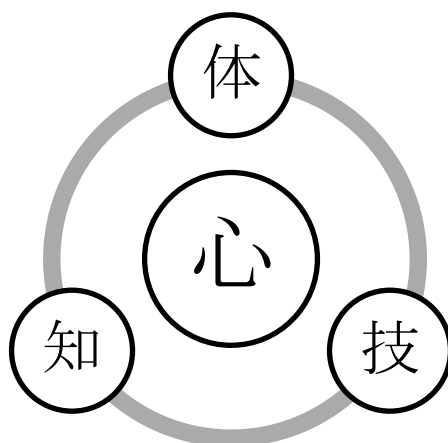
【カリキュラム表】

自然探究	1年	科目	国語総合	現代社会	世界史A	数学Ⅰ	数学A	科学と人間生活	コミュニケーション英語Ⅰ	英語表現Ⅰ	英語会話	体育	社会と情報	家庭基礎	探究基礎	総合	H	R
		単位数	4	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	1	1	
	2年	科目	現代文B	古典A	日本史A又は地理A	数学Ⅱ	数学B	生物基礎又は物理基礎	化学基礎	コミュニケーション英語Ⅱ	保健	体育	芸術Ⅰ	探究ⅠA	探究ⅠB	総合	H	R
		単位数	3	2	3	4	2	2	2	4	1	2	2	2	2	1	1	
	3年	科目	現代文B	数学Ⅲ		数学演習	生物又は物理	化学	独自科目	コミュニケーション英語Ⅲ	保健	体育	芸術Ⅱ	探究Ⅱ	総合	H	R	
		単位数	3	5		2	4	4	2	4	1	2	1	3	1	1		

スポーツ探究コース      スポーツを知る、スポーツを科学する、スポーツを伝える

【教育目標】

スポーツについての“基礎的・専門的な知識と技能の習得”をめざし、実践的な学習活動（探究活動）を通じて、「心・体・知・技」を育むとともに、生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する資質や能力（地域スポーツの振興を担う人材）を育成します。



1. 「心」を鍛えます・・・スポーツマンシップ、フェアプレーの精神を育成し、競技力の向上、スポーツを楽しむ心を育成します。
2. 「体」を鍛えます・・・「健全な精神は健全な体に宿る」、アスリートとして、プレーヤーとして必要な体力を育成します。
3. 「知」を鍛えます・・・スポーツを科学的にとらえ、競技力の向上・生涯スポーツの振興に必要な基礎知識を習得します。
4. 「技」を鍛えます・・・各競技に必要な専門的技術の育成、生涯スポーツを担う人材を育成するための基礎技術を身につけます。

#### 【学習の特徴】

実践的な学習活動（探究活動）を通じて、専攻する競技について専門的に学習すると同時に、生涯スポーツに関わる学習を行います。また、現代社会で必要とされる社会性・協調性・コミュニケーション能力を身につけるために各種実習を行います。3学年の3学期には研究発表会を行います。

#### 【探究テーマ例】

- ・バスケットボールにおけるパッシングオフェンスに関する練習方法の研究
- ・コーディネーション・トレーニングに関する研究
- ・ウォーミングアップとクールダウンの重要性
- ・メンタルコンディショニングの歴史と現在
- ・パワーの伝わり方と打球の速さに関する研究
- ・バスケットボールにおける守備のフォーメーション～ちびっ子集団が勝つために
- ・人間は何歳までスポーツできるか
- ・競技能力を高める地域スポーツ行政とは
- ・サッカー競技における理想的なウォーミングアップ

・勝つための食事

【カリキュラム表】

スポーツ探究	1年	科目	国語総合		現代社会	世界史A	数学I	科学と人間生活	コミュニケーション英語I	英語表現I	体育		体育専攻実技I	社会と情報	家庭基礎	探究基礎	総合	HR	
		単位数	4		2	2	3	2	3	2	5		2	2	2	2	1	1	
	2年	科目	現代文B	古典A	世界史B	日本史A又は地理A	数学II	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語II		保健	体育		体育専攻実技II	芸術I	探究I	総合	HR	
		単位数	3	2	2	3	4	2	4		1	4		2	2	2	1	1	
	3年	科目	現代文B	国語演習		世界史B	数学演習	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語III		保健	体育		体育専攻実技III	スポーツ科学	芸術II	探究II	総合	HR
		単位数	3	3		4	2	2	4		1	4		2	2	1	3	1	1

こつつん こつつん  
 ぶたれる土は  
 よいはたけになって  
 よい麦生むよ。  
 朝からばんまで  
 ふまれる土は  
 よいみちになって  
 車を通すよ。  
 ぶたれぬ土は  
 ふまれぬ土は  
 いらぬ土か。  
 いえいえそれは  
 名のない草の  
 おやどをするよ。  
 金子みすゞ 「土」

○ 普通科カリキュラム表 (案)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
国際探究	1年	科目	国語総合		現代社会	世界史A	数学I	数学A	科学と人間生活	コミュニケーション英語I	英語表現I	英語会話	体育	社会と情報	家庭基礎	探究基礎	総合	H	R															
		単位数	4		2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	2	1	1															
	2年	科目	現代文B	古典A	世界史B	日本史A又は地理A	数学II	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語II	英語表現II	保健	体育	芸術I	探究I A	探究I B	総合	H	R																
		単位数	3	2	2	3	4	2	4	2	2	1	2	2	2	2	1	1																
	3年	科目	現代文B	国語演習		世界史B	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語III	英語表現II	英語演習	独自科目	保健	体育	芸術II	探究II	総合	H	R																
		単位数	3	3		4	2	4	4	2	2	1	2	1	3	1	1																	
社会(地域)探究	1年	科目	国語総合		現代社会	世界史A	数学I	数学A	科学と人間生活	コミュニケーション英語I	英語表現I	英語会話	体育	社会と情報	家庭基礎	探究基礎	総合	H	R															
		単位数	4		2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	2	1	1															
	2年	科目	現代文B	古典A	世界史B	日本史B又は地理B	数学II	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語II	英語表現II	保健	体育	芸術I	探究I A	探究I B	総合	H	R																
		単位数	3	2	2	3	4	2	4	2	1	2	2	2	2	1	1																	
	3年	科目	現代文B	国語演習		世界史B	日本史B or 地理B	独自科目	数学演習	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語III	英語演習	保健	体育	芸術II	探究II	総合	H	R															
		単位数	3	3		4	2	2	2	2	4	2	1	2	1	3	1	1																
自然探究	1年	科目	国語総合		現代社会	世界史A	数学I	数学A	科学と人間生活	コミュニケーション英語I	英語表現I	英語会話	体育	社会と情報	家庭基礎	探究基礎	総合	H	R															
		単位数	4		2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	2	1	1															
	2年	科目	現代文B	古典A	日本史A又は地理A	数学II	数学B	生物基礎又は物理基礎	化学基礎	コミュニケーション英語II	保健	体育	芸術I	探究I A	探究I B	総合	H	R																
		単位数	3	2	3	4	2	2	2	4	1	2	2	2	2	1	1																	
	3年	科目	現代文B	数学III		数学演習	生物又は物理	化学	独自科目	コミュニケーション英語III	保健	体育	芸術II	探究II	総合	H	R																	
		単位数	3	5		2	4	4	2	4	1	2	1	3	1	1																		
スポーツ探究	1年	科目	国語総合		現代社会	世界史A	数学I	科学と人間生活	コミュニケーション英語I	英語表現I	体育	体育専攻実技I	社会と情報	家庭基礎	探究基礎	総合	H	R																
		単位数	4		2	2	3	2	3	2	5	2	2	2	2	1	1																	
	2年	科目	現代文B	古典A	世界史B	日本史A又は地理A	数学II	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語II	保健	体育	体育専攻実技II	芸術I	探究I	総合	H	R																	
		単位数	3	2	2	3	4	2	4	1	4	2	2	2	1	1																		
	3年	科目	現代文B	国語演習		世界史B	数学演習	生物基礎又は化学基礎	コミュニケーション英語III	保健	体育	体育専攻実技III	スポーツ科学	芸術II	探究II	総合	H	R																
		単位数	3	3		4	2	2	4	1	4	2	2	1	3	1	1																	

## 第 III 部 地域医療に貢献する人材の育成（看護教育）

5 全日制課程・看護科（5年一貫）の開設が求められます。

### 1. 看護科開設の意味

#### （1）看護師の養成は急務です

「共生の時代」にありながら、日本のあらゆる地域と医療現場から看護師不足の声が上がり続けています。

#### （2）尾張西部地域に高校看護科を

愛知県内の高校看護科（5年一貫）は、東三河地域（豊川市）と尾張地域（大府市）の2校しかありません。名古屋以西の地域の看護師をめざす子どもたちの学ぶの場が必要です。

#### （3）地域ネットワークで地域の看護師を育成

地域内の病院、老人施設、保育所、訪問看護ステーション等での実習を通じて子どもたちは大きく成長します。地域社会に必要な看護師を地域社会自身が育てる、そのお役にたちたいと考えます。

#### （4）豊かな教育効果

受験競争に追いつてられることなく、高校段階から腰を据えて看護専門学科で学ぶことは、職業教育としてだけでなく、人間教育、人格の形成という観点からも大変意味深いと指摘されています。

看護を学ぶとは、人間を学び、科学を学び、社会を学ぶことであり、その過程で自分の役割とやりがいをつかみ取っていくことです。それは、本校が教育目標に掲げる「人間の尊厳を学び、道を拓く」営みそのものです。

#### （5）負担のより少ない高校5年一貫

普通科高校卒業後4年制大学の看護科へ進むよりも、2年短く国家試験受験資格が得られます。高校看護科は学費も含め本人負担が最も少なくてすみます。

#### （6）良好な国家試験合格率

全国の高校看護科（5年一貫）出身者の看護師国家試験合格率は良好です。大学や専門学校に引けを取らない高校もたくさんあります。

[参考：高校看護科（5年一貫）の看護師国家試験合格率推移]

平成 20（2008）年度	平成 21（2009）年度	平成 22（2010）年度
94.9%	93.2%	96.2%

## 2. 看護科の教育目標

ヒューマンケアの根本を学び、看護実践能力を高め、医療・看護チームの一員としてふさわしい協働と連携する能力を身につけ、生涯学び続けながら地域医療を支える心やさしい看護師を育てる。

### <本科（1年～3年生）の目標>

- (1) 看護教育を通じて、豊かな感性や人間性を育みます。
- (2) 看護者として求められる基礎的・基本的な知識、技術、態度を養います。
- (3) 望ましい使命感や職業観を育みます。

### <専攻科（4年～5年生）の目標>

- (1) 3年間で学び得た看護の基礎・基本をさらに深化、充実させ、知識、技術の習得を図ります。
- (2) 人間を身体的・精神的・社会的に統合されている存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養います。
- (3) 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護実践能力を養います。
- (4) 健康の保持増進、疾病の予防、健康回復に関する看護を、健康の状態に応じて実践する基礎的能力を養います。
- (5) 健康・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養います。
- (6) 看護専門職として、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養います。

## 3. 学習の特徴

- (1) 高等学校（本科）では、普通科目を中心に看護の基礎・基本を学び、専攻科では、看護師として社会に幅広く貢献できる専門の知識・技術・態度を習得します。
- (2) 高等学校（本科）1年から臨地実習を行います。一般病院だけでなく、老人施設、保育所、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション施設などの実習も行います。
- (3) 5年次には、体験した看護をケーススタディとしてまとめ発表会を行います。
- (4) 本科修了時には高等学校卒業証書を授与し、5年修了して看護師国家試験の受験資格が得られます。

## 4. 学習内容

- (1) 基礎分野  
文学、心理学、教育学、スポーツ科学 など
- (2) 専門基礎分野

解剖生理学、栄養生化学、病理学等、看護学を学ぶ上で必要な医学知識や社会保障制度など

(3) 専門科目

基礎看護技術、看護学概論、臨床看護総論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護、看護の統合と実践 など

5. カリキュラム表 (案)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33			
看護科 (5年一貫)	本科	1年	国語総合	現代社会	数学Ⅰ	科学と人間生活	コミュニケーション英語Ⅰ	体育	音楽Ⅰ	家庭基礎	解剖生理	生活と健康	基礎看護概論	基礎看護技術	看護と倫理	臨床看護概論	基礎看護実習	探究基礎	総合	HR																	
			4	2	3	2	3	2	2	2	2	2	1	1	2	1	1	1	2	1	1																
		現代文B	世界史A	数学Ⅱ	生物基礎	コミュニケーション英語Ⅱ	体育	社会と情報	解剖生理	栄養生化学	感染と免疫	疾病の成り立ち	薬物と薬理	精神保健	基礎看護技術	臨床看護概論	成人看護	老人看護	基礎看護実習	総合	HR																
	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	4	1	1																	
	現代文B	日本史A	数学Ⅱ	化学基礎	コミュニケーション英語Ⅱ	英語会話	体育	社会保障制度と福祉	基礎看護技術	成人看護	老人看護	小児看護	母性看護	成人看護臨床実習	老人看護臨床実習	総合	HR																				
	3	2	2	2	2	2	3	1	4	2	1	1	1	3	2	1	1	2	1	1																	
専攻科	4年	基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ													統合分野																			
		哲学	教育学	心理学	スポーツ科学	社会学	解剖生理学	栄養/生化学	微生物学	病理学/疾病と治療	薬理学	基礎看護技術Ⅰ	基礎看護技術Ⅱ	看護学概論	成人看護学概論	成人看護学Ⅰ	成人看護学Ⅱ	老年看護学概論	老年看護学Ⅰ	老年看護学Ⅱ	小児看護学概論	小児看護学Ⅰ	小児看護学Ⅱ	母子看護学概論	母子看護学Ⅰ	母子看護学Ⅱ	精神看護学概論	精神看護学Ⅰ	精神看護学Ⅱ	成人看護学実習	老年看護学実習	在宅看護概論	在宅看護Ⅰ	在宅看護Ⅱ	看護の統合と実践		
	1	1	1	1	1	2	2	3	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2		
	基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅱ	統合分野																																	
文学	スポーツ科学	英会話	情報活用	人間関係学	解剖生理学	疾病と治療	公衆衛生学	社会福祉学	総合医療論	関係法規	成人看護学Ⅱ	精神看護学Ⅱ	成人看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護Ⅱ	看護の統合と実践	在宅看護論実習	看護の統合と実践実習																	
1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2																	

※ 科目配列は一部変更となることがあります。

## 6 昼間定時制（単位制）・衛生看護科（准看護師養成コース）の教育目標とカリキュラム

### 1. 教育目標

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持促進、とりわけ地域医療に寄与する能力と態度を育てる。

自ら学び自ら考える力（未来型学力）を基本に

- ① 人間について幅広く理解し、豊かな人間性、感性、思いやりを育みます。
- ② 個性を生かし、相互理解のためのコミュニケーション能力を身につけます。
- ③ 基礎・基本をしっかり学び、生涯を通じて看護を学び続ける態度を身につけます。
- ④ 地域の健康づくりや環境保護の実践を学びつつ地域医療を支える資質を養います。
- ⑤ 健康管理能力を高め、自己実現を図ります。

### 2. 学習の特徴

- (1) 専門科目は、学校での授業と校内実習を経て、地域の病院などで実習を行います。
- (2) 学校行事や生徒会活動と関連させながら、地域の福祉施設での就業体験やボランティア活動に取り組みます。
- (3) 昼間定時制（午後1時～5時）の特徴を生かし、午前中の時間を就業体験や様々な自主活動に利用します。
- (4) 修了時には准看護師資格試験の受験資格が得られます。

### 3. 学習内容

#### (1) 各年次の特徴

- 1年次：普通科目の学習と共に、看護の基礎的・基本的な知識と技術を学びます。
- 2年次：基礎学習の積み重ねの上に、人体、疾病、人間の成長段階などを学びます。
- 3年次：専門性を高め、臨地実習によって学びを深めます。
- 4年次：地域に貢献できる准看護師としての知識、技術、態度を身に着けます。

#### (2) 主な看護科目の学習内容

- \* 「基礎看護」：看護の意義と役割、日常生活の援助、診療における看護に関する基礎的な知識と技術等について学びます。
- \* 「人体と看護」：人体の構造と機能、栄養、感染と免疫等、人体と生活や環境との関係について学びます。



- \* 「疾病と看護」：疾病の成り立ちや治療と薬物に関する知識を習得し、回復を促進させる看護との関連について学びます。
- \* 「生活と看護」：ストレスとその対処など精神保健や生活環境と健康、さらに社会保障制度と福祉についての知識を習得し、社会生活における医療と保健、福祉の関係について学びます。
- \* 「老年看護」：高齢者の加齢、生活、保健及び疾病について理解し、高齢者の看護に関する知識と技術を学びます。

### (3) 臨地実習

終日、病院などで現役看護師さんの指導を受けながら、患者さんの身体を拭いたり、血圧を測ったり、検査や手術の見学を行います。連携や準備など看護師としての働き方も学びます。また、一日を振り返り課題を自覚するための実習記録を毎日書きます。

## 4. カリキュラム表

[中学校卒業者]

昼間定時制(単位制) 衛生看護科 中卒者 標準例	1年	科目	国語総合	現代社会	数学Ⅰ	科学と人間生活	コミュニケーション英語Ⅰ	体育	音楽Ⅰ	社会と情報	基礎看護	人体と看護	老年看護	総合	HR			
		単位	1	2	2	2	2	2	2	1	2	5	3	1	1	1		
	2年	科目	国語総合	世界史A	数学Ⅰ	生物基礎	コミュニケーション英語Ⅰ	体育	音楽Ⅰ	家庭基礎	基礎看護	人体と看護	疾病と看護	母性看護	小児看護	成人看護	総合	HR
		単位	1	2	1	2	1	2	1	1	4	2	3	1	1	2	1	1
	3年	科目	国語総合	日本史A	数学Ⅰ	体育	家庭基礎	成人看護	看護臨地実習						総合	HR		
		単位	1	2	1	2	1	2	12						1	1		
	4年	科目	国語総合	体育	基礎看護	生活と看護	老年看護	精神看護	看護臨地実習					HR				
		単位	1	1	1	2	1	2	9					1				

[高校以上卒業者]

高卒者 標準例	1年	科目	基礎看護			人体と看護	疾病と看護	成人看護	老年看護	総合	H R			
		単位	7			4	3	2	1	1	1			
	2年	科目	基礎看護	人体と看護	成人看護	看護臨地実習					総合	H R		
		単位	2	1	2	12					1	1		
	3年	科目	基礎看護	生活と看護	老年看護	精神看護	母性看護	小児看護	看護臨地実習				総合	H R
		単位	1	2	1	2	1	1	9				1	1

上の雪  
さむかるな。  
つめたい月がさしていて。

下の雪  
重かるな。  
何百人ものせていて。

中の雪  
さみしかるな。  
空も地面もみえないで。

金子みすゞ  
「つもった雪」